

李 王(りおう)

登録番号：第2528号

育成者：深沢 涉

登録年月日：平成2年12月5日

来歴：「大石中生」と「ソルダム」

登録者：深沢 涉(山梨県中巨摩郡
甲西町落合2298)

の交雑実生

特 性

■栽培特性

樹勢は若木のうちは強いが、樹齢とともに落ち着いてくる。樹の大きさは中、豊産性で、結実が始まると樹は開張する。枝の発生はやや粗で、花束状短果枝の着生は良好である。

開花期は山梨県で3月下旬から4月上旬で、「ソルダム」よりやや遅い。花粉は多く結実性は良好なことから「ソルダム」より自家結実性があるのではないかと思われるが、実用的な結実率ではなく、人工受粉の必要がある。付近に栽培されている「ソルダム」、「サンタローザ」、「太陽」、「大石早生すもも」等の品種の花粉を利用すれば結実が安定するので、他の品種との交配和合性は高いものと思われる。結実は容易であり、花束状短果枝、短果枝、中果枝、長果枝のいずれにも結実する。収穫時期は7月上旬から中旬と長く、「サンタローザ」と一時期重なる。1本の樹でも着果位置等で収穫時期が異なり、早い果実と遅い果実の差が他の品種より著しく、同時期に過熟果と適熟果が混在する場合がある。このため、収穫に当たっては過熟、未熟とならないようにする必要がある。

■果実特性

平均果実は107gあり、比較的大きく、摘果を上手にすれば玉揃いも良い。果形は「大石中生」に似た短心臓形で、空洞果はほとんどない。果皮の着色は淡紅色で、完熟果は全面に濃紅色に着色する。果肉の色は白かややクリーム色である。果肉の成熟は着色と同時にあり、酸味が少ないので、果頂部にわずかに着色した状態で可食状態となる。日持ち性はあまり良いほうではなく、完全着色したものは軟化が早い。このため、収穫は「大石早生すもも」と同様に果頂部にわずかに着色した時期を目安とする。糖度は適熟果で13%前後で比較的高い。酸味はpH3.8、スモモとしては少ないほうである。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

ウイルスに感染すると果実の着色がまだらとなり、果肉がやや硬くなるので、高接ぎはしないほうが良い。また、「太陽」、「大石早生すもも」等でウイルスの症状が認められる時は、樹液の流動している時期の剪定には細心の注意をする必要がある。

スモモで最も問題となる黒斑病は山梨県での発生が近年ほとんどの品種で認められないので強弱は不明である。その他の病虫害は他品種と変わらない。

本品種は先に述べたように果実の熟度が個々で異なる。

収穫間際が多灌水および多肥は品質の低下と収穫期の遅延につながり注意が必要である。「スモモ台」、「モモ台」とも接木親和性は高いので、土壌により使い分ける(乾燥にはモモ台が強く、湿気にはマリアナスモモが強い傾向がある)。いずれでも「土壌線虫」に耐性のある台木を選定する必要がある。また、古い産地では根頭癌種病(クラウンゴール病)の発生があると思われるので苗木の罹病状況に注意する必要がある。

■地域適応性

既存のスモモ栽培地域では栽培が可能であるが、凍霜害の常習地域では生産が不安定になりやすいので避けたほうが良い。

(遠藤 久)